

# 続・ふるさと

## 延生のお地藏さんから

### 移った地藏菩薩像②

第17回

地藏菩薩像について述べる。

木像地藏菩薩立像は江戸時代の製作で総高50cm（台座・光背）像高31・5cm。形状は円頂、三道彫出。覆肩衣と納衣、裳をつける。品質・構造は、櫨材寄木造、彫眼で古色仕上げ、像は一ないし二材を部分により矧合わせてうまく利用し、頭体部側面材はそれぞれ内刳りをほどこす。保存状態は、右側材欠失し、左右の耳垂欠落す。

地藏菩薩は大地の恵みを神格化した菩薩で、釈迦の死後、弥勒仏がこの世に生まれるまでの無仏時代に、人々を救済する菩薩として広く信仰され



てきた。鎌倉時代には六道（地獄、餓鬼、畜生、修羅、人道、天道）の救済者として一般にまで広がった。平安末からは半跏形式で腹部に裳の上端をのぞかせるのが流行する。後にこれらの像は「腹帯地藏」と呼ばれ、安産祈願の対象として信仰されるようになる。延生の城興寺の地藏菩薩半跏像がその代

表的な作例である。立像には「下野國／延生山移」とあり、城興寺から移座されたもので、この地で墨書銘が書かれ、年号などは古さを示すためと思う。製作年代は江戸時代中期だが、微妙に起伏する目線やふくよかな頬の表現、唇の彫出しなど、かなり手なれた仏師の作である。お顔の表情が大変よい。

### 編集後記

「墓なぎ」：鎌などを手に墓地を掃除すること。

□毎年お盆近くになると、梅雨明けして日差しが照りつける中、草だらけになつたお墓を掃除に行きます。この時期は、雑草の生命力の強いこと甚だしく、取つても取つてもきりがありません。かといって、土葬した先祖が埋まっている土に除草剤をかけて良いものか。

□夏場に枯れ草が目立つ、最近のあぜ道を見ると、ホタルやトンボが飛び回る青々とした草藪が懐かしくなります。草刈り作業の大変さも分かっているの

で、いたしかたない気持ちですが…。

（田舎育ちの中年）



※写真提供：矢澤高史氏（宇都宮市）

町内に生息するホンダタヌキは、本来は森林性の夜行動物であったが、最近では人里や住宅地周辺などに頻繁に出没している。家庭の生ゴミなどを餌として容易に求めやすくなり習性も変化した。

中型の犬くらいの大きさで、やや臆病的な性格。飼い犬の鳴き声で、ピョンと横跳びをしながら一目散に逃げていく姿は滑稽であるが、この性格が災いして子タヌキは輪渦に巻き込まれて死亡する例が多い。

林地や草地に春季から秋季にかけて土中に巣穴を掘って繁殖し、家族群で生活しているが、巣穴の中はいたって清潔であり、排泄物は少し離れた尾根筋の一定の場所にするので「タヌキのため糞」と呼ばれている。

※類似種＝アライグマ（輸入種が野生化）

■編集 芳賀町広報広聴委員会  
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp  
■発行 芳賀町企画課  
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地  
■芳賀町ホームページアドレス <http://www.town.haga.tochigi.jp>  
■苦情専用フリーダイヤル ☎0120(753)898

